

東海経済レポート

（2016 年 11 月）

～企業・家計部門ともに一進一退が続き、全体の景況感は横這い～

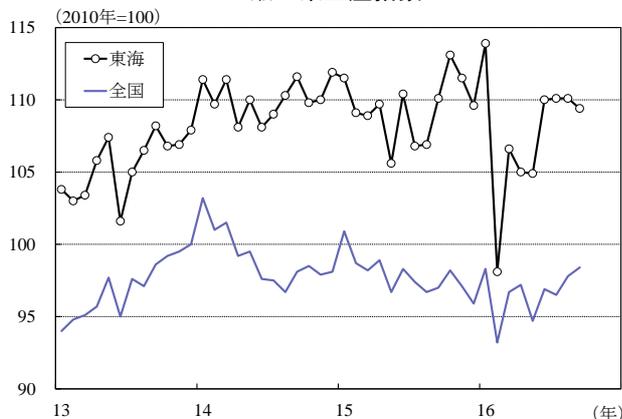
【足元の経済情勢と当面の見通し】

- ◇ 東海経済は、企業部門と家計部門ともに一進一退で推移しており、地域全体の景況感としては横這いの状況。企業部門は、10 月までの円高を背景に輸出の足踏みが続くうえ、生産の回復にも一服感が見られる。設備投資は高水準を維持するが、弱さを示す先行指標も見られ、今後の投資の実行状況には要留意。家計部門は、引き締まった雇用環境が下支えとなるが、個人消費はもたついた状況が継続。
- ▶ 生産は、9 月の鉱工業生産指数が前月比▲0.6%と 4 ヶ月ぶりに低下。業種別では、輸送機械が同+4.5%と 2 ヶ月ぶりにプラスへ転じたほか、生産用機械も同+2.4%と 2 ヶ月連続で上昇した。ただ、電子部品・デバイスが同▲13.3%と大幅に低下し、生産全体の下押し要因となった。
 - ▶ 設備投資は、大企業の 4-6 月期の投資額が前年比+15.6%と 7 四半期連続の増加。ただ、先行指標とされる金属工作機械の 9 月の国内受注額は同▲15.4%と 12 ヶ月連続で減少。最大の受注先である一般機械工業からの受注は 8 月より増加に転じたものの、自動車工業からの受注が 8 ヶ月連続で減少しており、全体の下押し要因となっている。設備投資の持続性には要留意。
 - ▶ 輸出額（円ベース）は、9 月に前年比▲8.5%と 10 ヶ月連続で減少。相手国別では、最大の輸出先である米国向けが同▲12.5%、2 位の中国向けが同▲6.7%とともに 7 ヶ月連続で減少したほか、アジア向けや EU 向け、中東向けも減少。品目別では、自動車部品が 2 ヶ月連続で増加した以外は軒並み減少。
 - ▶ 雇用は、需給の引き締まった状況が継続。9 月の有効求人倍率は、愛知県が 1.63 倍、岐阜県が 1.72 倍、三重県が 1.47 倍と 3 県揃って 2 ヶ月ぶりに上昇し、引き続き 3 県ともリーマン・ショック後の最高レベルで推移中。
 - ▶ 個人消費は、9 月の小売主要 3 業態の販売が前年比▲0.7%と、2 ヶ月連続で減少。コンビニがプラスを維持する一方、百貨店とスーパーは前年比マイナスで推移。一方、9 月の新車販売台数は同+4.2%と、3 ヶ月連続で増加。ただ、軽自動車販売の前年割れは継続中。
 - ▶ 住宅着工は、9 月に年率換算で 8.8 万戸、前年比▲0.5%。前年同月にマンションの大量着工があったため、その反動から前年割れとなったが、全体の着工戸数は今年の最高水準。

【生産①】

9月の鉱工業生産指数は前月比▲0.6%と4ヵ月ぶりに低下し、持ち直しの動きに一服感。

鉱工業生産指数



(注)『東海』は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)中部経済産業局統計等より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【生産②】

業種別では、電子部品・デバイスが前月比▲13.3%と大幅に低下し、全体を下押し。

業種別の鉱工業生産(東海)

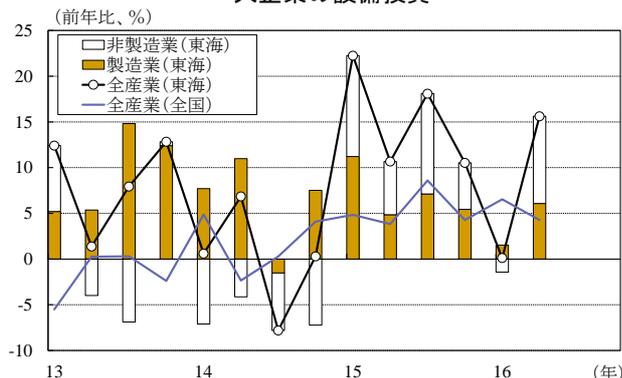


(注)1.『東海』は愛知、岐阜、三重の3県。
2.()内の数値は、業種毎の付加価値額の比率(平成22年基準)。
中部経済産業局算出
(資料)中部経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【設備投資】

4-6月期の大企業の設備投資は、前年比+15.6%のプラス。製造業・非製造業ともに同2桁の増加。

大企業の設備投資

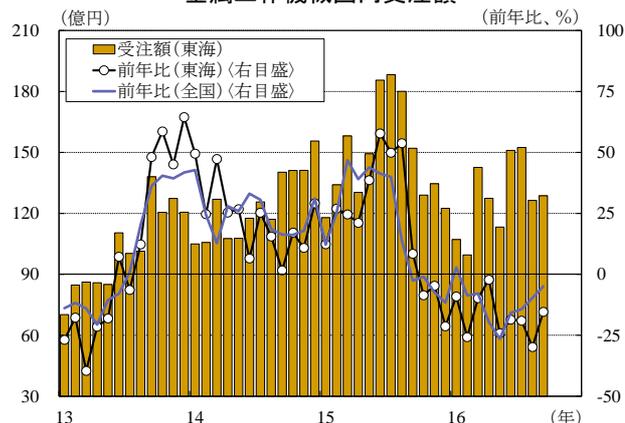


(注)1.『東海』は愛知、岐阜、静岡、三重の4県。
2.資本金10億円以上の企業を対象。
3.設備投資額はソフトウェアへの投資を除いた金額。
(資料)東海財務局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【金属工作機械受注(国内)】

金属工作機械の国内受注額は9月に前年比▲15.4%と、12ヵ月連続でマイナス。

金属工作機械国内受注額

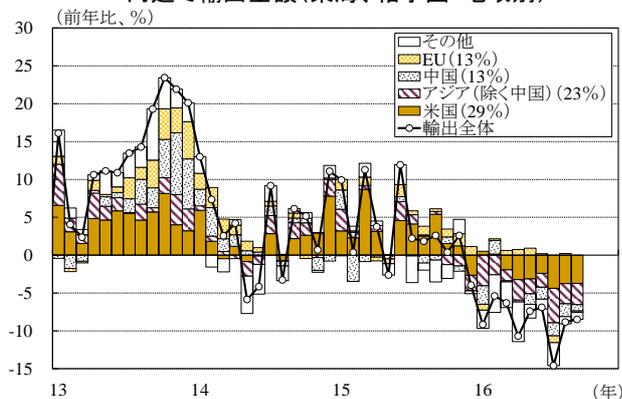


(注)東海は中部経済産業局管内の主要8社。
(資料)中部経済産業局統計等より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【輸出】

9月の輸出額(円ベース)は、前年比▲8.5%と10ヵ月連続のマイナス。相手国・地域を問わず低迷。

円建て輸出金額(東海、相手国・地域別)

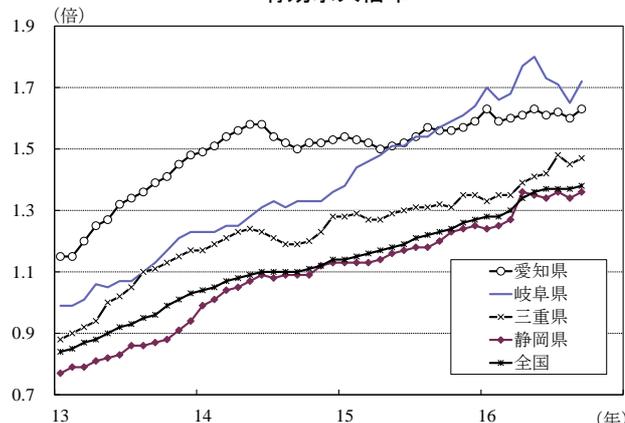


(注)1.『東海』は名古屋税関管内(愛知、岐阜、三重、静岡、長野)。
2.()内の数値は2015年輸出総額に占めるシェア。
(資料)名古屋税関統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【雇用】

9月の有効求人倍率は愛知県で1.63倍、岐阜県は1.72倍、三重県は1.47倍と3県揃って上昇。

有効求人倍率

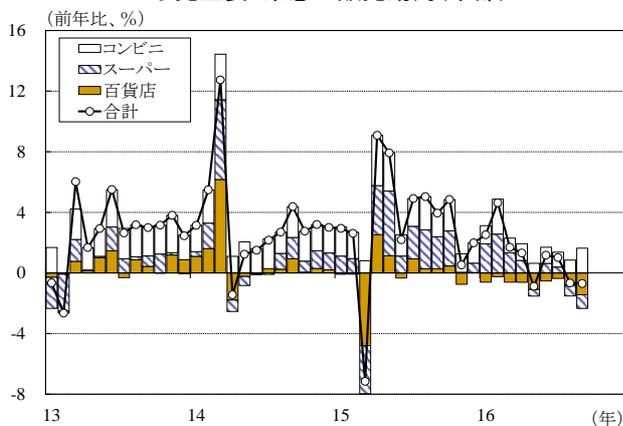


(注)『有効求人倍率』は、「有効求人数」を「有効求職者数」で除したもの。
(資料)厚生労働省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【個人消費】

9月の小売主要3業態の販売は前年比▲0.7%と2ヵ月連続で減少。

小売主要3業態の販売動向(中部)

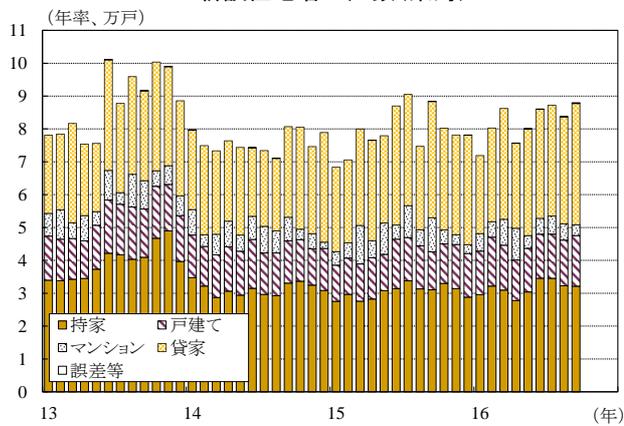


(注)『中部』は愛知、岐阜、三重、富山、石川の5県。
(資料)中部経済産業局統計等より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【住宅投資】

9月の住宅着工戸数は年率換算で8.8万戸。前年比では▲0.5%ながら、2016年入り後の最高水準を記録。

新設住宅着工戸数(東海)

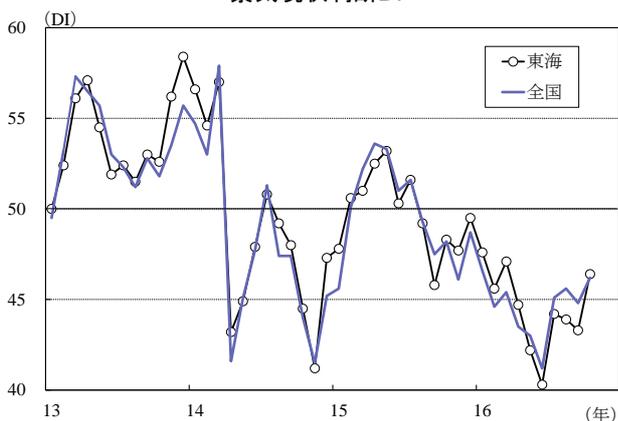


(注)『東海』は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)国土交通省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【景気ウォッチャー調査】

10月の景気現状判断DIは46.4と3ヵ月ぶりに上昇するも、15ヵ月連続で50.0を下回った。

景気現状判断DI

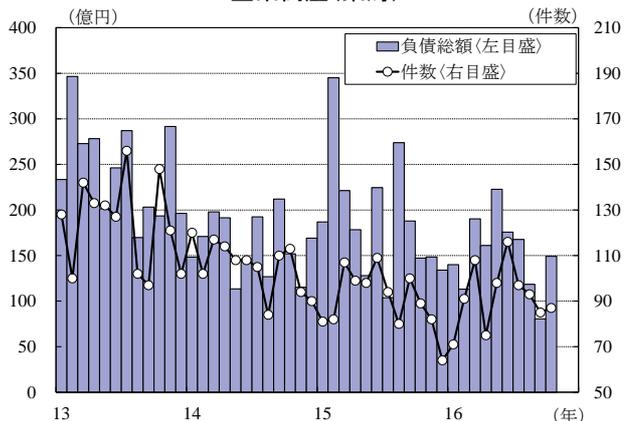


(注)『東海』は愛知、岐阜、三重、静岡の4県。
(資料)内閣府資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【倒産件数】

10月の企業倒産件数は87件、前年比▲2.2%と2ヵ月連続で減少。負債総額は同+1.3%の増加。

企業倒産(東海)



(注)『東海』は愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
(資料)東京商工リサーチ資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【原油価格】

WTI先物は、11月のOPEC総会での減産合意を巡る思惑等で上下動し、直近は1バレル45ドル前後の推移。

原油価格

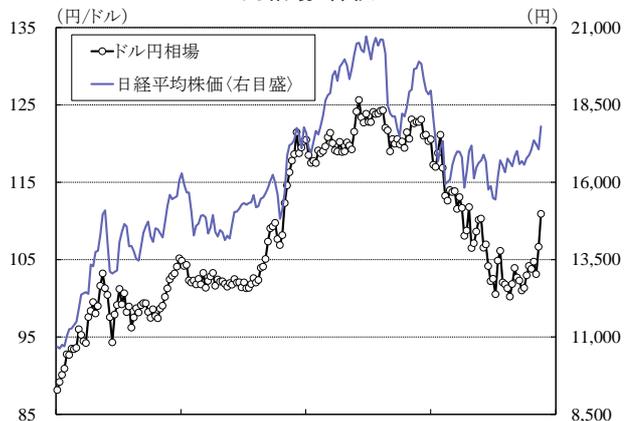


(注)『原油価格』はWTI先物。
(資料)Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

【円相場・株価】

米国トランプ次期大統領による財政政策拡大への期待等からドル高が進行。円安好感で日本の株価も上昇。

円相場・株価



(資料)Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室（名古屋）

中村 健彦 takehiko_nakamura@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。